

令和 3 年 8 月 19 日現在

機関番号：28003

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2020

課題番号：18K18612

研究課題名（和文）島嶼地域における女性の主体的移動と近現代社会に与えた普遍的インパクトに関する研究

研究課題名（英文）Global Impact of Island Women's Proactive Migration on Modern Society

研究代表者

小川 寿美子（OGAWA, SUMIKO）

名桜大学・人間健康学部・教授

研究者番号：20244303

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では20世紀初頭の島嶼女性の海外移動の主体性について検討した。例えば沖縄では女性が海外に移動した公的記録に夫の呼び寄せや写真結婚など男性に従属する印象が強いが、それは女性の移動に男性の関与が求められるという制限があったことが明らかとなった。また当時の島嶼女性の海外移動の動機をインタビューや資料の定性分析すると移動の決断には内に秘めた非表出型の主体性が推測できる表現が少なくなかった。そのため島嶼女性が社会的マイノリティとして当時弱い立場にいらながらも、移動することが最大限の主体的行動の一手段であったと考えた。本研究は社会的立場が違う女性で他に4つの島嶼地域も対象とし同様の結論が導かれた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的・社会的意義は、20世紀初頭という女性にとって比較的社会的立場の弱い時代に、島嶼から移動した事例に数多くの主体性を見出すことができた点である。例えば、自分たちの生活をより良いものにしたという強い決意と精神を持って行動する共通のパターンが存在した点、子どもの教育を高い優先課題として捉えている点、文化的ルーツとの強い繋がりを維持し、故郷島への新しい風を吹きこむ点、低賃金や人権軽視など市民として受け入れられない場合でも移動国の文化や教育に着実に影響を与えている点、移動の理由の根底には家族から背中を押された、時代の後押し、コミュニティに対する想いに応えるなどがある点、である。

研究成果の概要（英文）： This research explores the proactive migration of island women and their global impact on modern society. In the case of Okinawan women who migrated overseas at the beginning of the twentieth century, public records often classify them in a subordinate role to men as wives (e.g., picture brides). As there were restrictions, women were unable to acquire a means of travelling abroad independently. In a systematic analysis of available documentation and interview records, an investigation of the motives of women who have migrated abroad during the early twentieth century was conducted. An examination of hidden "non-expressive" lexical cues may reveal the true intent of the women emigrants. The research project included the situation of women's proactive moments from several islands, including: Okinawa, Ireland, Saipan, Taiwan, and the Philippines. Different localized conditions and personal expectations in the proactive movements were observed among the women.

研究分野：グローバルヘルス

キーワード：女性 主体的移動 島嶼間移動 結婚 リプロダクティブ 市民活動 ドメスティックワーカー グローバル社会

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究の構想に至った背景は、研究代表者が、平成 26 年度から 3 年間、名城大学研究基盤形成事業「環太平洋を中心とする沖縄から/への〈人の移動〉に関する総合的研究」に関わり、北米地域、特にハワイ移民の事例研究の過程で芽生えた研究仮説を、本研究で検証したいと考えたからである。ハワイの研究資料などでまとめられた移民女性像は、「写真花嫁」など殆どが男性に対する従属的理由による出国を記述するものであった。しかし、研究代表者の専門領域である公衆衛生学の切り口から女性移民の資料を集め始めたら、例えば助産婦は主体性をもってハワイに移動していたことを、当時の新聞アーカイブ集から読み取ることができた。このように出移民社会で積極的に地位を築き、主体的に移動した女性は例外であったのか。もしくは助産婦に限らず、その他の職種や地位の女性にも、移動に主体的であったのか。当時、沖縄という島嶼地域からの女性による主体的な移動に必然性があったのか、あるいは内的要因のなかに主体性があったのか、移動するか否かを選択できる状況であったのか、文化や歴史、政治や経済の時代の変遷による後押しがあったのか、教育や貧困、ジェンダーに起因する差別と関連があったのか、リプロダクティブ・ヘルス（生殖の性）に起因した移動であったのか、国際社会で活躍する現代女性の主体的移動は、近代女性の移動黎明期と比べてどのような共通点や相違点があるのか。これらの問いに対して多分野の専門家と議論を重ねる中で明証化し、女性の主体的移動に関する普遍性について体系的に研究する価値があると考えた。

2. 研究の目的

人は生まれ育った土地から移動するとき、まず男性が新転地に赴き、女性や家族が後に続く傾向がある。例えば 1899 年、沖縄では最初の移民先であるハワイに開拓者として 26 名の男性が移動し、男性の出移民先での定着と増加とともに、その後、多くの未婚女性が写真花嫁としてハワイに呼び寄せられた。このように近代の人の移動は男性が主体的であったのに対して女性は追従的な立場であった。しかし助産婦の開業から同組合の結成に至るまで、出移民社会で積極的に地位を築き、主体的に移動した例外的な女性もいた。

そこで本研究では、近現代に主体的に移動した先駆的な女性に焦点を当て、以下の事柄を明らかにすることを目的とする。即ち、当時、沖縄という島嶼地域からの女性による主体的な移動に必然性があったのか、あるいは内的要因のなかに主体性があったのか、移動するか否かを選択できる状況であったのか、文化や歴史、政治や経済の時代の変遷による後押しがあったのか、教育や貧困、ジェンダーに起因する差別と関連があったのか、リプロダクティブ・ヘルス（生殖の性）に起因した移動であったのか、である。

上記事象の明証化を基軸とし、更に近現代社会において沖縄の女性が住み慣れた土地を離れ、外の世界に向かった要因が、他の島嶼地域にも普遍的な事象なのか、島嶼からの移動と大陸からの移動を比べ、それぞれ必然性はあるのか、などを検証することも、本研究の目的とした。

3．研究の方法

移民・女性のキーワード検索で得られる先行研究の論文や書籍の精読、および米国国立国会図書館の新聞アーカイブ (<http://chroniclingamerica.loc.gov/>)、スタンフォード大学図書館の日系移民に関するアーカイブ・コレクション (<https://hojishinbun.hoover.org/>)、ハワイ大学社会科学部によるディアスポラのオーラルヒストリー集 (<http://www.oralhistory.hawaii.edu/>) を精査し、活字からみた女性移民の自発性を探究する。その作業により方向性が示された後、キー・インフォーマントに対するインタビュー調査を実施した。

また国際共同研究者として、アイルランドの National University of Ireland, Maynooth (Professor Rebecca Chiyoko King: エスニック・アイデンティティ学, Professor Jane Gray: 歴史学), Trinity College Dublin (Mary Condren: ジェンダー研究・女性学)、カナダの University of Lethbridge (Professor Glenda Tibe Bonifacio: ジェンダー研究・移民学) との意見交換や学術交流があった。

4．研究成果

研究者別に対象地域と成果（結果）を以下に記述する。

<研究代表者：小川寿美子>

主な研究対象地域：沖縄、アイルランド

沖縄では男性の移民の方が女性移民よりも多かったのはなぜか、またアイルランドではなぜ女性移民の方が男性移民よりも数が多いのかに焦点を当てた。沖縄女性とアイルランド女性が他の国に移動した際に、果たして自らの決断で、主体性ある行動であったのか否かを検討し、それが現代社会にどのようなインパクトを与えたのかを明らかにするため、近代における沖縄女性移民およびアイルランド移民に関する資料の定量・定性分析およびアイルランドと沖縄の島嶼女性移民を比較した。当時沖縄の女性が海外に移動した理由は公的記録では、夫の呼び寄せや写真結婚など、男性に従属する記載が殆どであった。その理由として、当時の女性の海外移動は、男性の関与が条件といった制限があったことが本研究で明らかとなった。またアイルランドではイギリス植民地地下において大飢饉が生じたため、海外移民が多数発生し、なかでも女子孤児がイギリス軍人の妻となるためにオーストラリアに4000名余が移動し、女性同士のチェーンマイグレーションが起きたことが女性移民の比率が多い原因と推測された。

近代社会では女性は社会的マイノリティとして現代よりも言動ともに弱い立場にあったが、女性の移動はその社会的制約のなかでリスクは負いながらも実現できる最大限の主体的行動のひとつに値すると考えられた。

<研究分担者：Fewell Norman>

主な研究対象地域：沖縄県北部地域、アイルランド

沖縄県北部地域のうち、今帰仁村（Hana Yamauchi）と本部町（Kuniko Uehara）における女性の移動について、インタビュー調査と文献レビューを実施した。いずれも沖縄からアメリカへと移動した女性である。2名には共通するパターンが存在していた。例えば、自分たちの生活をより良いものとする手段として移動を主体的に決意したこと、強い精神を持って行動したこと、などである。更に子どもの教育に重点を置いている点も顕著であった。実際、上述の2名とも、教育に力を注がれて育った子どもたち（2世）は社会で活躍している。その他、沖縄女性移民の場合、文化的ルーツとの強い個人的かつ精神的なつながりを移動後も維持する点が共通している。

<研究分担者：山里絹子>

主な研究対象地域：サイパン、ハワイ

サイパンでの現地調査を実施し、収集したオーラルヒストリーをもとに、ハワイ、サイパンそれぞれの島嶼間における移民、移住者女性経験の共通性と特異性を考察した。例えばサイパンでは、幼少期に日本統治下のサイパンへ家族で移住し戦後沖縄に引き揚げてきたある一人の女性のライフストーリーの分析を通して、自己の移動経験に対する主体的な意味付けがライフストーリーの中でどのようになされるのかを考察した。本研究を通じて、特に沖縄とサイパンの二つの地域に共通する「島嶼性」を視野に入れ、自己の移民経験に対する主体的な意味付けがなされていく過程が明らかになった。南洋群島からの戦後引揚者は、国家の犠牲者としてその戦争に「翻弄された」人生に焦点があてられることが多いが、本研究では戦争体験そのものではなく、引き揚げ後の沖縄でどのように自己のサイパン戦の記憶とかわり戦後沖縄を生きてこられたのかに注目した。

<研究分担者：玉城直美>

主な研究対象地域：沖縄、台湾

現代における台湾における人の移動と社会変革に着目し、沖縄に主体的に移動した経験のある台湾女性のライフストーリーに見る社会運動に参加する市民の動きを検討した。台湾女性（活動家）や同若者へのインタビューを通じて、台湾の民主化の動きが可視化し、特に若者の意識について分析をおこなった結果、台湾の教育機会が民主主義を豊穡させているのではないかと推測された。沖縄と台湾は地理的条件など共通する点が多いが、女性や若者の社会参画に差が生じるのはなぜかについて、台湾の教育機会との違いを今後も探求していく予定である。

<研究分担者：金滋英>

主な研究対象地域：フィリピン、フィジー

「女性の自主的な移動」という観点から、フィリピンからシンガポールへドメスティックワーカー（住み込みのメイド：以下 FDW と略）として、契約により決められた期間内の労働のみを目的とした移動に着目した。FDW たちが社会的に低い地位に置かれ続けている社会構造を、社会的背景、また雇用主との関係性の視点から明らかにし、FDW を一時的な労働力の輸入としてみなすのではなく、重要な知的財産を持った市民として社会に受け入れることが、受け入れ国にとっても利益となるのではないか、という可能性を探った。雇用主の子どもと FDW の情緒的な繋がりが、家庭内やシンガポール社会における偏見や価値基準によって否定される実情は、映画や文芸の世界で表現されているが、アカデミックな研究は、まだあまりない。FDW が住み込み先の子どもの「第二の母」として慕われながらも、低賃金や人権軽視など市民として受け入れられていない事実は大きな矛盾である点、その矛盾の中で起こるホスト社会での変革について指摘された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 小川寿美子	4. 巻 105
2. 論文標題 19世紀におけるアイルランド人の移動について－社会的背景からみた女性国際移民の動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本アイルランド協会会報	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fewell Norman	4. 巻 26
2. 論文標題 The Earl Grey Scheme: A Historical Account of Female Orphan Emigration from Ireland to Australia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名桜大学紀要	6. 最初と最後の頁 47-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Fewell Norman	4. 巻 5
2. 論文標題 Immigrant Life Stories in American Culture - The Case of Northern Okinawans -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名桜大学教員養成支援センター年報	6. 最初と最後の頁 49-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 玉城直美	4. 巻 18
2. 論文標題 台湾女性(Ipin Chen)のライフストーリーにみる社会運土に参加する市民の動き	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 沖縄キリスト教学院大学論集	6. 最初と最後の頁 25-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Kuniko Maehara Yamazato
2. 発表標題 Remembering the Battle of Saipan: The Life Story of an Okinawan Repatriate and Anti-military Activism in Okinawa
3. 学会等名 American Studies Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川寿美子
2. 発表標題 植民地主義の時代後期における女性の移動：アイルランドと沖縄の比較研究
3. 学会等名 日本移民学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 玉城直美
2. 発表標題 台湾に見る若者の社会運動参加について
3. 学会等名 国際ボランティア学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 山田恒夫（第7章 小川寿美子）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 305
3. 書名 情報化社会と国際ボランティア（第7章 国際ボランティア活動の諸相（5） - 人の移動と国際ボランティア-	

1. 著者名 小川寿美子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 沖縄タイムス社	5. 総ページ数 10
3. 書名 やんばる世界を拓く (序論、結論)	

1. 著者名 Fewell Norman	4. 発行年 2021年
2. 出版社 沖縄タイムス社	5. 総ページ数 11
3. 書名 やんばる世界を拓く (人を助ける心：本部町)	

1. 著者名 山里絹子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 沖縄タイムス社	5. 総ページ数 12
3. 書名 やんばる世界を拓く (郷里への想いーハワイへの戦後移住と言葉の継承：羽地村)	

1. 著者名 玉城直美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 沖縄タイムス社	5. 総ページ数 11
3. 書名 やんばる世界を拓く (歌と踊りで紡がれる移民四世のファミリーヒストリー：屋我地村)	

1. 著者名 金滋英	4. 発行年 2021年
2. 出版社 沖縄タイムス社	5. 総ページ数 14
3. 書名 やんばる世界を拓く (多くの命が奪われた疎開一対馬丸の間をさまよう：国頭村)	

1. 著者名 金滋英	4. 発行年 2021年
2. 出版社 沖縄タイムス社	5. 総ページ数 12
3. 書名 やんばる世界を拓く (淵を舞うーニューヨークより沖縄を想うー：名護町)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山里 絹子 (YAMAZATO KINUKO) (00635576)	琉球大学・国際地域創造学部・准教授 (18001)	
研究分担者	Fewell Norman (FEWELL NORMAN) (20577994)	名桜大学・国際学群・教授 (28003)	
研究分担者	玉城 直美 (TAMASHIRO NAOMI) (60754322)	沖縄キリスト教学院大学・人文学部・准教授 (38004)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金 滋英 (KIM JAYUNG) (90795949)	名城大学・環太平洋地域研究所・共同研究員 (28003)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	喜納 育江 (KINA IKUE) (20284945)	琉球大学・国際地域創造学部・教授 (18001)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
アイルランド	National University of Ireland, Maynooth	Trinity College Dublin		
カナダ	University of Lethbridge			